総合的な学習の時間　学習指導案

日時　　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第６校時
学校名　小学校
対象　　第６学年
会場　　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名　「SDGs　これからの世界と未来　〇〇のまちをよりよくしよう」

２　単元の目標

まちに住み、地域のために働く方々や市役所の方と関わることを通して、地域の魅力や課題、町に関わる方の思いや願いを理解し、地域の一員として自分たちにできることを考え、互いのよさを生かしながら協働して取り組むとともに、これからの生活や行動に生かすことができるようにする。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　地域や市役所の方が市やまちを思う気持ちやその取組によって、地域の特徴やよさが分かり、人々の努力や工夫によって支えられていることを理解している。 ②　地域の魅力と課題を調べるために、地域や市役所の方へのインタビューやアンケートを目的に応じて行うことができる。 ③　地域に対して何かをしようとする思いの高まりは、地域をよりよくするために探究的に活動してきたことのよさであることに気付いている。	①　〇〇地域の現状から課題をつくり、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②　〇〇地域の課題解決のために必要な情報を、適切な手段を選んで収集し、蓄積している。 ③　課題解決に必要な情報を取捨選択し、観点に合わせて整理し、考えている。 ④　伝える相手や目的に応じて自分の考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①　活動を通して、地域や市役所の方への感謝の思いをもち、すすんで探究的な学習に取り組もうとしている。 ②　自分と違う意見や考えを生かしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③　自分も地域社会の一員であること認識し、よりよい町づくりのために地域の一員として自分にできることに取り組もうとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）第５章総合的な学習の時間

第２　各学校において定める目標及び内容
２　内容
各学校においては、第１の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。
３　各学校において定める目標及び内容の取扱い
⑶　各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。
⑸　目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。

を受けて設定した。

本単元は、小学校学習指導要領第５章総合的な学習の時間第２の３の⑸に示された三つの課題のうち「児童の興味・関心に基づく課題」に当たる。地域の課題を自分事として捉え、地域の特徴や地域社会とのつながりを多面的・総合的に考える力、地域ために、地域の一員として地域社会に参画する力を育てることをねらいとしている。

第１学期に学習した SDGs の視点を生かし、地域の魅力や課題を探すところから始めた。まちの魅力や課題を再認識し、「もっとよくしたい」という思いをもつことができるのではないかと考える。その過程において、市役所の方や地域のために力を尽くしている方と出会い、その思いや願いを知ることで、自分たちの住む地域に対して、より愛着をもつことができるようにしたい。また、最後には、自分たちが調べたことや活動してきたことについて、下級生や地域、市役所の方に伝える活動を予定している。それぞれの立場の人に興味をもってもらうためにはどうしたらよいかを考え、伝える活動を通して、地域社会の一員として活動してきたという喜びを味わわせたい。

⑵　児童観

新型コロナウイルスの蔓延により、地域との関わりや学校外に出ての活動に制限があったため、地域の魅力や課題についてあまり考えることができていない児童がもいる。以下は、第２学期はじめに児童にとったアンケート結果の一部である。

	肯定	少し肯定	中間	少し否定	否定
自分の住んでいる地域は好きか	56.8%	21.6%	16.2%	2.7%	2.7%
大人になってもこの町に住みたいと思うか	29.7%	32.4%	0.1%	21.6%	16.2%

今住んでいる地域が好きだと答える児童は、全体の約 80%、大人になってもこの町に住みたいと思う児童は全体の約 60%であった。地域のよさを尋ねると、「人が優しい」、「高齢者に優しい」、「みんな挨拶をしてくれる」など、住んでいる人によるもの、「公園がたくさんある」、「自然がたくさんある」など、自然に関するものの二つに分類することができた。児童全員が、地域のよさを「人」や「自然」であると考えていた。一方で、環境や人々の暮らしについて課題を感じている児童も多い。

この地域は、新興住宅地として発展し、多くの住宅が立ち並んでいる地域である。３世帯が一緒に住んでいる家庭も多く、これからもこの地域で生活をしていく児童が多いと考えられる。また、地域の力が強く、児童は地域の高齢者との交流が日常的にある。地域について、自分たちで歩き調べる活動の他に、地域に住んでいる方々や町をよりよくしようとしている市役所の方などとの対談の機会をもち、地域の方々の思いや願いに触れさせたい。自分自身もこれからこの地域の担い手であることに気付かせ、地域への愛着を一層養いたいと考える。

総合的な学習の時間については、97%の児童が好きだと答え、さらに、「本やインターネットで調べものをする」、「見学や体験活動をする」、「友達と協力して取り組む」、「スライドやポスターを作る」ことを楽しいと感じると回答した。一方で、「自分の意見をもつ」、「自分の意見を相手に伝える」ことを苦手としている児童が多い。調べ学習や体験活動、協働的な学習を充実させ、自分で考えることを多く経験させることで、次第に自分の意見をもったり、説明をしたりすることへの抵抗感が無くなっていくのではないかと考える。

⑶　教材観

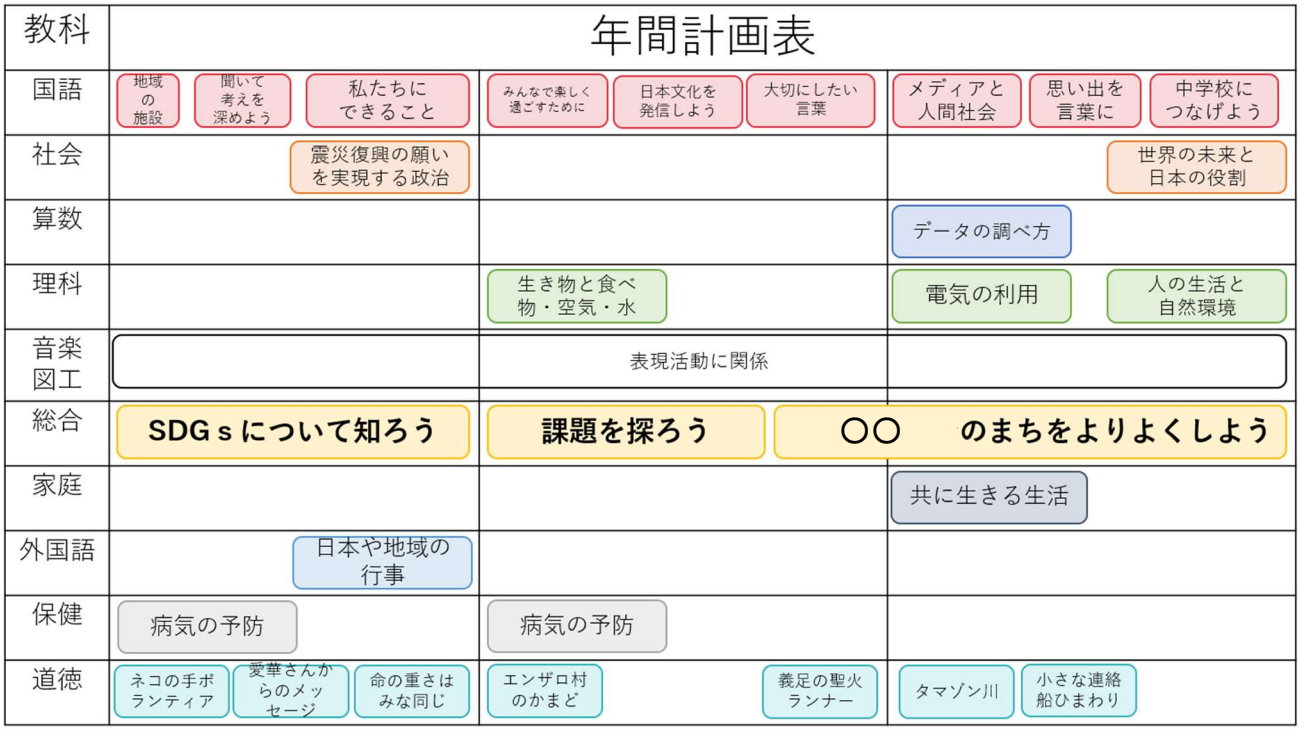
本校は、住宅地の中心部に位置している。公園も多く、自然が多い。住んでいる地域の高齢化が進んでおり様々な課題が見られているが、児童の登下校の時間には、地域の高齢者の方々が横断歩道で安全確認をしたり、放課後の児童を預かったりしているなど、学校の教育に協力的である。

○○市は、2022 年３月より、新たな基本構想・基本計画をスタートさせた。ライフステージに合わせ、九つの政策を打ち出し、行動している市である。それぞれの政策に SDGs の視点も取り入れている。第６学年という年代や学習内容から、行政の方がどのような市や町を目指して行動しているのかということも、徐々に理解できてくる。前の単元では、市役所の方に連絡を行い、オンラインで○○市の政策や課題について話を聞いた。今後、自分たちにできることを考える上で市役所の方とも継続的に連携することで、市が目指すまちづくりを知ると同時に、自分たちがどのように変えていくのかという視点をもつことができるのではないかと考える。

自分たちの知識や経験だけでなく、地域と市役所の方々と連携することで、自分たちにできることは何なのかをじっくりと考え、児童が意欲をもって活動し、地域貢献をする経験をすることで、地域に対する愛着や喜び、充足感をもつことのできる学習にしたい。

５　年間指導計画における位置付け（全 67 時間）（全 72 時間中、５時間は情報教育に活用）

	単元名	時数
第一学期	SDGs について知ろう ～世界や日本の課題とは～	15 時間
第二学期	SDGs　これからの世界と未来 ～○○のまちの魅力や課題を探ろう～	15 時間
	SDGs　これからの世界と未来【本単元】 ～○○のまちをよりよくしよう　Part１～	25 時間
第三学期	SDGs　これからの世界と未来 ～○○のまちをよりよくしよう　Part２～	12 時間



６　単元の指導計画と評価計画（全 25 時間扱い）

時	目標	○学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第１時 ～ 第３時	今までに学習してきたまちの現状から、これから取り組むことを考える。	○　単元の見通しをもつ。 ・　これからどのような学習をしていくかについて話し合う。 ・　まちの魅力や課題について振り返る。 ・　複数のアイデアから、自分たちが取り組む課題について決定する。	アー① イー① ウー① （発言、ワークシート、振り返り）
第４時 ～ 第７時	考えた「自分たちにできること」について実現する方法や、どうしたら効果的に行動できるか情報を集める。	○　課題の解決策について考える。 ・　取り組む課題について、最終的にまちがどうなってほしいかを出し合い、計画を立てる。 ・　インターネットや書籍から、情報を集めたり、地域の方や保護者、校内の先生方、市役所の方（電話）に対するインタビューを行ったりして、できることを探る。	アー② イー② ウー② （発言、ワークシート、振り返り）

第８時 【本時】 第９時	集めた情報を基に、自分たちがどのようなことをしていくかについて話し合う。	・　調べたことを基に、具体的にどのように行動していくかについて情報を交換する。 ・　具体的な方法の「メリット」、「デメリット」、「疑問点や新しいアイデア」という視点で意見を出し合う。 ・　これから第３学期にかけて、自分たちが取り組んでいくことについて「安全面」、「コロナ対策」も視野に入れながら考え、具体的な方法を決定する。	イ－③ （発言、ワークシート、振り返り）
第 10 時 ～ 第 18 時	地域をよりよくするために、できることについて考えたことを実行する。	○　よりよいまちにするために、自分たちにできることを実行する。 ・　友達と協力しながら、実行する。 ・　一緒に活動に協力してくれた方にアンケートを依頼し、自分たちの成果や課題について情報を集める。	ウ－③ （発言、ワークシート、振り返り）
第 19 時 ～ 第 22 時	自分たちの行動について振り返り、成果や課題について話し合う。	○　成果や課題についてグループごとに振り返り、まとめる。 ・　協力してくれた方の意見から、自分たちの活動を客観的に見る。 ・　自分たちの活動の改善点について話し合う。	ア－① イ－③ イ－④ （発言、ワークシート、振り返り）
第 23 時 ～ 第 25 時	ここまでの学びを振り返り、さらにこれからしてみたいことについて話し合う。	○　これまでの活動を振り返る。 ・　第１学期からの活動を振り返る。 ・　自分たちの成果や課題についてグループごとに発表し合う。 ・　探究的に学習したことによって得た成果や分かったことを振り返る。	ア－③ イ－① （発言、ワークシート、振り返り） ウ-③ （ワークシート）

７　指導に当たって

２年間を３期に分けて各期に設定した班のテーマは以下のとおりである。

第１期	主体的に学習するための探究的なプロセスへの手立て
第２期	主体性を発揮するための学習環境とその手立て
第３期	深い学びの実現に向けた振り返りと評価の充実

【第１期テーマに対する手立て】

⑴　体験学習やゲストティーチャーの活用

児童の興味・関心から、地域の課題を探るため、SDGs を学習した状態で「まち探検」を行う。その体験から、いつもは気にしない地域の環境や、人々の暮らしなどに目を向けることができると考える。また、地域の方や市役所の方など、児童の学習の過程において、必要に応じてお話を伺う機会を設けた。学校を支援してくださる地域の方が多くおり、長く学校に関わってくださっている方が多いため、その方との関わりを促し、よりたくさんの意見を集めたり、課題や改善方法を探ったりするための手立てとした。

⑵　考えるための技法（思考ツール）の活用

考えを広げたり関連付けたり、順番を付けたりするような場面において、目的に沿った思考ツールを活用した。自分の考えをもったり、自分の考えを相手に伝えたりすることが苦手な児童が多い

ため、学級活動の時間などに思考ツールに触れる機会を作った。また、国語の学習で「季節」に関する単元や意見文を書くような単元でも活用を図ってきた。自分の考えが可視化、構造化されるため、少しずつではあるが、自分の考えを整理し、生かすことができるようになってきた。

【第２期テーマに対する手立て】

⑶　時間配分と学習環境

授業において、児童の活動の時間を確保するために、導入の時間を短くする工夫をする。そのために、前時の板書を掲示したり、学習したことをまとめた掲示物を作成したりする。自分たちが何を目標にしているのか、何をしていたのかがすぐに確認できる状況をＩＣＴ機器や掲示物を活用して作ることで、授業で自分の意見をもつ場面やめあてを考える場面で活用することができるようにする。

⑷　振り返りの充実

自分の意見をもつことが苦手な本学級の児童に、自分の意見や感想を書く経験を積ませるねらいとして行っている。第１学期には、少しでも意見を書くことができるようにするために、「書く」ことに抵抗感を抱きにくい文章量とした。初めは、「楽しかった」、「よく分かった」だけの一文で終わっていた児童も次第に書くことができるようになってきた。第２学期からは、ＩＣＴ機器の活用を行い、文字数を制限したり、友達の意見を見ることのできる環境をつくったりした。

【第３期テーマに対する手立て】

⑸　振り返りの活用

他の児童の振り返りを見えるようにすることの他に、第２学期の振り返りを一覧にすることで、ポートフォリオとなり、指導者がそれぞれの考えの深まりや変化が見取れるようにした。また、授業の導入に前時の児童の振り返りを活用し、学習の見通しをもたせたり、新たな興味・関心を引き出したりする手立てとした。

⑹　ルーブリック評価の活用

児童が主体性を発揮し、学びを充実させるために、ルーブリック評価表を作成することで、指導者が児童の学習状況を把握し、公正な評価ができるようになる。また、該当する時間でどのような評価をするべきなのかが分かるようにすることで、指導者がどのような手立てをとったらよいかを考えやすくした。

評価規準	評価項目	学習目標	☆☆☆ 非常に優れている	☆☆ 十分できている	☆ できている
イ－③ 課題解決に必要な情報を取捨選択し、観点に合わせて整理し、考えている。	思考判断表現 整理分析	・　集まった情報から、自分たちが取り組むことについて多角的に考えることができる。	・　集まった情報について、それぞれのよさや課題について具体的な効果を多角的に考え、整理するとともに、課題の改善方法について提案することができる。	・　集まった情報について、それぞれのよさや課題について具体的な効果を多角的に考え、整理することができる。	・　集まった情報について、それぞれのよさや課題について考え、整理することができる。

8　本時の学習（全 25 時間中の第８時）

⑴　本時の目標

集めた情報を基に、自分たちがどのようなことをしていくかについて話し合い、具体的な方法のよさや課題について考える。

⑵　本時の展開

時間	○学習活動　・学習活動	・指導上の留意点	☆評価規準 （評価方法）
導入 ５分	○　前時の学習を振り返る。 Ｃ：自分たちにできることについて、情報を集めました。 ○　本日の活動について確かめる。 Ｃ：具体的にどのような方法を用いてまちをよりよくしていくかを話し合いたい。 ○　本日のめあて、学習の流れを確認し見通しをもつ。	・　前時の学習を振り返り、話合い活動の見通しや活動の目的を共有できるようにする。 ・　まちの「よさ」や「課題」、単元の最後にどのようになっていたいかの目標等これまでに話し合って決定したことをすぐに確認できるように掲示しておく。	
	めあて　自分たちが取り組むことの具体的な方法について考えよう。		
展開 35 分	○　まちをよくするための方法として、どのようなことができそうか、調べたことについて共有する。 ・　電子ホワイトボードを使って自分の画面を見せながら、共有する。 ○　具体的にどのようなことをしていくかについて考える。 ・　ＰＭＩチャートを活用し、それぞれの方法の具体的なよさや課題について話し合う。 Ｃ：　ポスターを作ることは、たくさんの人に見てもらえることがよい。 Ｃ：　公園の看板はあまり意識されていない。 Ｃ：　外に出なくても意識できるように、ポスティングしてい	・　情報を共有するときは、どのような成果が見込めるかについて具体的に話すようにする。 ・　提案することについては、前時までに電子ホワイトボードにまとめておくようにする。 ・　アンケートの結果や他の地区の実践例、協力を得られる先など具体的な情報を提示しながら話し合うことができるように声を掛ける。 ・　ＰＭＩチャートは「メリット」、「デメリット」、「疑問点や新しいアイデア」の３つに分け、ホワイトボードにあらかじめ表を作っておく。 ・　児童が個人で一押しの方法については、付箋に理由とともに記載しておくように指導する。	イ-③ ☆　集まった情報について、それぞれのよさや課題について考えることができる。 （発言、ワークシート、振り返り）

	く方がよい。 C： 紙のゴミを増やすことにつながるのではないか。		
	○ ＰＭＩチャートを共有し、それぞれのメリットやデメリットについて話し合う。 C： たくさんの人に知ってもらう活動をすることが大切だと思う。地域の冊子に載せたほうがよい。 C： チラシやポスターを作ることで、見てもらう機会が増え、わたしたちが取り組んでいることを分かってもらえれば、協力してくれる人がいると思う。	・ 「安全面」、「コロナ対策」も視野に入れながら、無理のない範囲でできることを決定する。 ・ 適宜、近くの人と話す時間を設け、発言ができるようにする。	
まとめ ５分	○ 振り返りを記入する。 C： まちのために、具体的にどんなことをしていったらよいか、はっきりしてきた。 C： 地域の人と協力しながら、まちをもっとよりよくしていきたい。	・ 振り返りはフォーム作成ツールで記入できるようにしておく。文字数は、50 字以上に制限する。また、同時に表計算ソフトにて回答内容を共有できるようにする。	

(3) 板書計画

12 月５日（月）

今日のめあて
まちのために取り組むことを決定しよう。

今日の流れ

① 自分の情報や一押しの方法を班の友達と共有する。
② どのように実行するかを話し合う。
③ 全体で共有する。

次の時間

情報をまとめて、実行する具体的な方法を決定しよう。

メリット	デメリット	疑問・アイデア

(4) 授業観察の視点

・ 話合いに活用した思考ツールは、児童がねらいを達成するために有効であったか。
・ 振り返りについて、文字数の制限を付け、友達の意見を見ることができるようにしたことは、自分の意見を言葉として表現することに有効であったか。